

大人の工場見学



木工部門で作られたアタッシュケースに使われる木枠。これから革と縫い合わされ、金具を取付けて内装の仕上げに進みます。



手縫い部分に糸を通す穴をあけているところ。後ろに見える白い紙は、パーツの取付け位置を合わせるための型紙。



50年くらい使われている木枠と革を一緒に縫い上げるドイツ製ミシン。国内でこのミシンの保有はこの工場だけとのこと。



こちらは内装など布地の縫製部門。うしろのケースには様々な色や種類の糸が揃えられています。



ジュラルミンや大型ケースの鉋打をするマシン。一度に4本の鉋を打ち込めます。



取付ける革パーツの下処理作業。縫製時にズレが生じないように両面テープをつけています。



60項目が書かれた「確認書」工程ごとに確認を行ない、仕様ミスや不良品の発生を防ぎます。



糊付けをしているところです。ムラなく均等に、手早く進められます。



革は一度穴が開いてしまうと縫い直しが出来ません。一針ひと針慎重に、確実に両方向から針を入れていきます。